

アイヌ政策推進交付金事業計画

1 事業名	標茶町アイヌ政策推進事業
2 事業の種類	文化振興事業・地域・産業振興事業・コミュニティ支援事業
3 事業の目的	地域に存するアイヌの歴史や文化等を保存・情報発信し、理解促進と集客による地域の産業振興を活性化させ、次世代への継承や魅力ある地域社会の形成を目的とする。
4 事業の概要	<p>(1) 文化振興事業</p> <p>【アイヌ文化の体験交流】</p> <p>①アイヌ文化に関わる体験伝承事業</p> <p>○事業実施主体 北海道標茶町</p> <p>○事業実施場所 標茶町内</p> <p>○事業の実施時期 令和4年4月～令和4年12月</p> <p>○事業の内容と考え方</p> <p>地域の人々が本町固有のアイヌ文化への理解を深めるとともに、アイヌ文化継承者を育成するため、以下の事業展開を図る。</p> <p>ア) アイヌ文化に関わる体験事業</p> <p>本町塘路地域では、アイヌ文化が息づき伝承されてきた。アイヌ文様を施した刺しゅうが行われてきたが、近年指導者と共に学ぶ機会も減少傾向にある。本事業ではアイヌ文様の刺しゅう講座を行い、アイヌ文化への理解を深めるとともに、アイヌ文化について興味を持つ人の発掘と後継者育成を進める。</p> <p>イ) ペカンペ（菱の実）採取体験事業</p> <p>塘路湖に生育する菱の実は、塘路アイヌを象徴する食料で古くより親しまれてきた。現在は塘路地域住民の間のみ流通する食材となっているが、地元で長く活動されているレイクサイド塘路と塘路漁業組合の協力を得て、塘路アイヌや塘路地域で食べられていた伝統的な調理法で菱の実を食す。</p> <p>本事業を通じ、塘路湖という特徴的な自然環境との共生とともに栄えた塘路アイヌへの理解を深め、アイヌ文化の地域性について興味を持ってもらう。</p> <p>ウ) アイヌ文化に関わる学習支援</p> <p>本町のアイヌ文化においてもっとも触れる機会が多いアイヌ語地名を中心とした講話を行う。講演はアイヌコタンがありまたチャシなども残されている、虹別地区と塘路地区で行う。本事業を通じ詳しく知る機会の少ないアイヌ語地名について取り上げ、参加者それぞれが日常接している地名についての理解を深める。</p>

(2) 地域・産業振興事業

【アイヌ文化関連のプロモーションの実施】

① 標茶町博物館ニタイ・トにおけるアイヌ文化展示資料整備事業

- 事業実施主体 北海道標茶町
- 事業実施場所 標茶町内
- 事業の実施期間 令和4年4月～令和5年3月
- 事業の内容と考え方

本町内におけるアイヌ文化の記録と資料保存を担う博物館について、以下の事業を実施することで、幅広い来訪者を呼び込み、本町のアイヌ文化と受け継がれてきた資料、そしてアイヌ民俗資料に根差した伝承について友好的な活用を図り、理解を深めてもらう。

ア) 標茶のアイヌ文化映像コンテンツの作成

博物館所蔵の塘路地域におけるアイヌ文化に関わる映像資料をデータ化し、本町のアイヌ文化への理解を目的とした映像コンテンツとして博物館常設展示室他、町内観光施設への活用を図る。

また本町内に伝承される伝説や昔話について、アニメーションの映像作品として製作し、本町のアイヌ文化について幅広い年齢層の方々を対象に理解を深めるコンテンツとして、博物館常設展示室の他、町内観光施設への活用に加え、町内小中学校への貸し出しを行う。

イ) 標茶町のアイヌ文化重要地映像記録

本町内のコタン跡及びチャシ、松浦武四郎が記録に残したアイヌ文化に関わる重要地をピックアップし、ドローンにより映像を撮影後、VRコンテンツとして作成し、当町のアイヌ文化を紹介する主軸の映像コンテンツと位置付ける。博物館他、町内観光施設での利用を図る。また希望に応じ貸出できる形をとり、幅広い活用を図る。撮影は標茶町内11か所を重要地として予定。

ウ) ペカンペ（菱の実）採取用舟製作業

塘路アイヌにおいて伝統的に行われてきた塘路湖のペカンペ採取の際に使用される舟を復元製作し、展示公開するとともに、製作過程を記録保存し、地域固有のアイヌ文化を伝承する。

② アイヌ文化伝承普及イベント事業

- 事業実施主体 北海道標茶町
- 事業実施場所 標茶町内
- 事業の実施期間 令和4年8月を予定
- 事業の内容と考え方

塘路口琴研究会「あそう会」を中心としムックリ演奏会、アイヌ歌舞などを行なうイベントを開催する。同時に標茶のアイヌ食文化に根差した体験試食会を行う。本イベントを通してムックリ演奏や塘路地域に伝わるアイ

	<p>ヌ文化に起因した伝統的な食文化を学び、併せて後継者の育成につなげる。</p> <p>③アイヌ文化関連施設整備事業</p> <p>○事業実施主体 北海度標茶町</p> <p>○事業実施場所 標茶町指定有形文化財 旧塘路駅通所</p> <p>○事業の実施期間 令和4年4月～令和5年3月</p> <p>○事業の内容と考え方</p> <p>塘路のコタンに暮らすアイヌの人々にとって、湖の内水面漁業は非常に重要であった。1886年(明治19年)に漁業番屋として建てられ、後に転用された旧塘路駅通所は、塘路アイヌの内水面漁業を示す唯一の物件である。駅通所取扱人は同地で最初に地曳網を導入したと伝えられ、漁業も併せて営んでいた。漁業はアイヌの方々を雇用し行なわれた。記録には残されていないが、立地上必要に応じ駅通所の活用もあったと考えられる。取扱人が残した資料には塘路のアイヌの方々を含む漁業に関する資料も多く含まれている。建物自体は高い価値を有するものの、現在地に移築されたとき、内部間取りが大きく変更されている。本事業にて駅通所を本来の間取りへ復元するとともに、塘路アイヌの内水面漁業を紹介する資料を展示したアイヌ文化関連施設として活用する。</p> <p>ア) 駅通所改修工事</p> <p>駅通所を移築前の本来の間取り及び取扱人の居住空間を復元するため、昨年度終了した実施設計に基づき改修工事を行う。</p> <p>イ) 塘路アイヌを中心とした展示造作</p> <p>明治時代の塘路アイヌに関する記録が残る塘路駅通所取扱人が残した資料を中心に、改修工事終了後に展示ケース及び解説パネルを配置し、アイヌ語を含めた多言語に対応した展示造作を行う。</p>
<p>5 アイヌ施策推進地域計画における記載</p>	<p>アイヌ施策の推進に必要な事業に関する事項 (アイヌ施策推進法第10条第2項第2号及びアイヌ政策推進交付金事業実施要綱第6条に基づく分類)</p> <p>4-2 アイヌの伝統等に関する理解の促進に資する事業</p> <p>■ アイヌ文化に関わる体験伝承事業</p> <p>古くよりアイヌコタンが所在し、その伝統文化が継承され続けてきた本町のアイヌ文化に関わる一般住民を対象とした体験学習や講演会を、体験伝承事業として位置づけ、継続的に開催する。</p> <p>4-3 観光の振興その他の産業振興に資する事業</p> <p>■ 標茶町博物館ニタイ・トにおけるアイヌ文化展示資料整備事業</p> <p>標茶町博物館ニタイ・トにおけるアイヌ文化展示資料を整備するため、以下の事業を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 標茶町博物館が所蔵する本町のアイヌ文化に係る映像について、コンテンツとして利活用できる形にし、本町に残る貴重なアイヌ文化の歴史

	<p>や伝統を理解する重要なツールとして活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本町内のチャシや送り場などアイヌ文化に関わる重要な地点を「アイヌ文化重要地点」とし映像記録にて保存し、利活用を図る。 ・ ペカンペ採取のために使用していた特有の採取用舟を復元製作する。 <p>■ アイヌ文化関連施設整備事業</p> <p>塘路湖内水面漁業を目的とした漁業番屋として設置。その後駅通所に転用された旧塘路駅通所を塘路アイヌと和人の漁業を示す施設として修復し、塘路アイヌに関わる文書資料を展示する空間として活用するとともに、当該施設の展示資料を整備する。</p> <p>■ アイヌ文化伝承普及イベント事業</p> <p>かつて標茶町塘路地区では「ペカンペ祭り」や「ゲルで遊ぼう」など、アイヌ協会や文化サークルが主体となったアイヌ文化に関わるイベントが活発に行われていた。しかし近年中心的な役割を担っていた「塘路あそう会」の会員高齢化等により、イベント開催が難しい状況にある。当町のアイヌ文化を保存継承する意味においても、継続的なイベント開催を回復させることで、多くに知ってもらう機会と後継者の発掘及び育成につなげる。</p>
<p>6 事業の成果目標等</p>	
<p>(1) 目標達成に向けた工程</p>	<p>(1) 文化振興事業</p> <p>①アイヌ文化に関わる体験伝承事業</p> <p>継続的連続的にアイヌ文化について学ぶ体験事業と学習講座を開催することで、地域の人々が本町固有のアイヌ文化への理解を深めるとともに、アイヌ文化継承者を育成する事業であり、体験事業・学習講座の参加者数が増加するほど効果が高まると考えられる。</p> <p>(2) 地域・産業振興事業</p> <p>①標茶町博物館ニタイ・トにおけるアイヌ文化展示資料整備事業</p> <p>本町に係るアイヌ文化の貴重な資料を有効活用し、本町のアイヌ文化の適切な保存と発信を行うことで、観光振興によるアイヌの歴史文化への敬意と社会的・経済的地位の向上を図る事業であり、博物館への入館者数が増加するほど効果が高まると考えられる。</p> <p>②アイヌ文化伝承普及イベント事業</p> <p>本事業を継続的に実施することで、地域のアイヌ文化への理解が深まるほか、協力者を発掘し、また育成につなげることで、本町のアイヌ文化伝承の担い手を増やし継続させる入口の事業として位置付けることができる。併せて博物館を会場とすることにより、入館者増に結び付くと考えられる。</p> <p>③アイヌ文化関連施設整備事業</p> <p>旧塘路駅通所を、アイヌ文化関連施設と位置付けることで、文化財的価値を高めると共に、塘路アイヌに関する展示施設として機能させることで、観光振興によるアイヌの歴史文化への敬意と社会的・経済的地位の向上を図る事業</p>

	<p>であり、旧塘路駅通所と近接する標茶町博物館を含め、一帯の利用者数が増加することにより効果が高まると考えられる。</p>
<p>(2) 成果目標、(中間) 目標年度 (成果目標に対する現状値、及び成果目標の達成見込みについて記載すること)</p>	<p>(1) 文化振興事業</p> <p>①アイヌ文化に関わる体験伝承事業</p> <p>体験事業・学習講座参加者数</p> <p>(現状値) 令和2年度 一人</p> <p>(中間目標) 令和5年度 55人</p> <p>(最終目標) 令和7年度 65人</p> <p>成果目標は達成する見込み。</p> <p>(2) 地域・産業振興事業</p> <p>①標茶町博物館ニタイ・トにおけるアイヌ文化展示資料整備事業</p> <p>②アイヌ文化伝承普及イベント事業</p> <p>標茶町博物館ニタイ・トの入館者数</p> <p>(現状値) 令和2年度 3,547人</p> <p>(中間目標) 令和5年度 6,000人</p> <p>(最終目標) 令和7年度 7,000人</p> <p>成果目標は達成する見込み。</p> <p>③アイヌ文化関連施設整備事業</p> <p>標茶町博物館ニタイ・トの入館者数</p> <p>(現状値) 令和2年度 3,547人</p> <p>(中間目標) 令和5年度 6,000人</p> <p>(最終目標) 令和7年度 7,000人</p> <p>成果目標は達成する見込み。</p>
<p>(3) 成果目標の確認方法</p>	<p>博物館及び駅通所の入館者数については、事業実施部局の外部委員会である博物館運営審議委員会により、達成状況を確認・検証し、事業の効果的な実施を目指す。また数値については『標茶町博物館紀要』『標茶町博物館活動報告』にて公表する。また成果目標の確認については、併せて標茶町役場ホームページや標茶町博物館ホームページ内にて閲覧できる状態とする。</p>
<p>7 地域の概要</p>	
<p>(1) 地域におけるアイヌ文化等の現状及び課題</p>	<p>本町においては町名である標茶(シペツチャ=大川端、大きな川(釧路川)の端)、周辺町域となる塘路(トウロ=沼の処)、虹別(ヌウシュベツ=豊漁の川)、磯分内(イソポウンナイ=兎のいる沢)など、アイヌ語に由来する地名が数多く残されている。釧路地域と、斜里及び標津方面とを結ぶ交通の要衝でもあった標茶町域は、釧路アイヌの勢力圏内に位置し、釧路川中流域に位置する標茶と塘路、西別川上流域に位置する虹別には一定規模のアイヌコタンがあった。これらコタンについての記録は、江戸幕府による第1次直轄期(1799年～1821年)及び第2次直轄期(1855年～)に複数回行われた巡検記録などに見ることができる</p>

が、もっとも詳しい記述を残したのは1858年（安政4年）に行われた松浦武四郎による調査記録『戊午東西蝦夷山川地理取調日誌』である。この中で武四郎は本町内の多くについて記述を残しており、また西別川の水源、シラルトロ沼、塘路湖については絵図を書き残すなど、当時の本町におけるコタンや土地の状況等を詳細に記録へ留めている。

本町の塘路、虹別地域は明治期以降の北海道開拓が進む中でも、伝統的なアイヌ文化における祭事は継続し行われていた。塘路コタンのペカンペカムイノミ（ペカンベ祭りとも呼ばれる）に関しては、昭和初期の記録としてペカンペカムイノミの様子を書き留めた見聞録及びアイヌ文化研究者による学術調査報告があり、虹別コタンで行われたクマ送りについても、同様の学術調査報告書が残されている。特に1990年（平成2年）頃まで行われていたペカンペカムイノミは、植物（菱の実）を対象とするアイヌ文化の中でも特色のある祭事である。

両コタンで使用されていた地域のアイヌ文化に係る伝統的な生活民具、祭具の一部は、標茶町博物館で保管している他、現在失われてしまった祭具の復元事業を平成11年度～平成22年度にかけて実施しており、事業内で製作された祭具も併せて展示している。

また本町のアイヌ文化の特色として、19箇所のチャシ、3箇所の送り場も周知の埋蔵文化財包蔵地として登録している。また「シラルトロ第1チャシ」「同第2チャシ」「マタコタンチャシ」については、平成27年度に国指定史跡となった「釧路川流域チャシ跡群」を構成するチャシ群に含まれており、今後の活用について関係1市4町（標茶町・釧路市・釧路町・弟子屈町）にて現在検討されている。

本町にアイヌ協会はないが、アイヌ文化や歴史に関わる文化財は多数残されており、これらの情報を蓄積し展示や事業等を通して発信する拠点として標茶町博物館ニタイ・トがある。またかつてコタンのあった塘路地区には、アイヌ文化の楽器であるムックリの演奏を中心とした文化サークル「塘路口琴研究会あそう会」があり、本町のアイヌ文化の伝承活動をされてきた方などが在籍していた。博物館や塘路地区公民館とのアイヌ文化普及に係る連携事業も継続的に実施しており、町民のアイヌ文化へ対する意識も高い。また北海道白老町に国立アイヌ民族博物館（ウポポイ）がオープンしたことにより、北海道内のアイヌ文化が国内外に注目されており、北海道内におけるアイヌ文化の発信拠点の一つである釧路市阿寒地域に隣接する標茶町にも、すでに釧路湿原国立公園における観光拠点として知られている塘路地域を中心に、アイヌ文化を目的とした観光客の増加が見込まれる。

本町を含む釧路地方のローカライズなアイヌ文化に関し、町民や本町を訪れる方々へ積極的な理解への促進を深めるとともに、アイヌ民族にルーツを持つ人々へは、自らのルーツに誇りもち生きられる社会実現を目指す。一方でこれらの実現に際し大きな課題として、本町に関わるアイヌ民俗資料の不足と共に博

	物館の整備強化、文化を受け継ぐための担い手不足が顕著であり、本事業を通じ目的達成を果たしたい。
(2) 施設等の管理運営体制	標茶町博物館ニタイ・ト及び旧塘路駅通所は、標茶町が管理運営している。
(3) アイヌ関係団体及び地域住民の協力体制	アイヌ文化の関連団体である塘路口琴研究会あそう会と、意見交換等を行っている。

8. 収支予算

(1) 収入の部

(単位：円)

区 分	本年度予算	前年度予算額	比 較 増 減	
			増	減
国庫補助金	74,289,600	10,399,200	63,890,400	0
市町村負担額	18,572,400	2,599,800	15,972,600	0
計	92,862,000	12,999,000	79,863,000	0

(2) 支出の部

(単位：円)

経 費 区 分	本年度予算	前年度予算額	比 較 増 減	
			増	減
文化振興事業	339,000	491,000	0	152,000
報償費	110,000	110,000	0	0
需用費	89,000	109,000	0	20,000
委託料	140,000	272,000	0	132,000
地域・産業振興事業	92,523,000	12,508,000	80,015,000	0
需用費	193,000	0	193,000	0
委託料	39,557,000	12,508,000	27,049,000	0
工事費	49,973,000	0	49,973,000	0
備品購入費	2,800,000	0	2,800,000	0
合 計	92,862,000	12,999,000	79,863,000	0
報償費	110,000	110,000	0	0
需用費	282,000	109,000	173,000	0
委託料	39,697,000	12,780,000	26,917,000	0
工事費	49,973,000	0	49,973,000	0
備品購入費	2,800,000	0	2,800,000	0